

報道関係各位

2020年 年頭所感

森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子

新年明けましておめでとうございます。

令和という新しい時代を迎えた昨年は、企業の移転・増床ニーズや、ワーカーの多様な働き方を支援する動きが強まったこともあり、オフィス市場は好調に推移しました。ホテル市場については、日韓関係の悪化や大型の台風上陸など外部環境の影響を受けながらも、ラグビーW杯の開催により世界中のラグビーファンが日本を訪れたことで宿泊需要が活況を呈し、五輪開催に向けて大きな手応えを掴んだと言えます。2020年、森トラストグループは、持続可能な経営をめざし、今年の東京五輪とその先の不動産業界を見据え、各事業を力強く推進してまいります。

不動産事業では、「東京ワールドゲート」が竣工を迎えます。これに先駆け、港区・神谷町エリアを盛り上げるため昨年発足した「まちづくり推進室」を中心にクリエイティビティを高める多彩な空間構築と、コミュニティ活動やエアイベントによる共創・共栄の持続可能な街づくりをすべく計画を進めています。国家戦略特区に認定された「(仮称)赤坂二丁目プロジェクト」(2025年度竣工予定)の計画の具体化も進めており、五輪の先のプロジェクトにも着手していきます。

ホテル&リゾート事業では、従来より「都心でも地方でも」をスローガンに、グローバルスタンダードの外資系ホテルの誘致開発を推進してきました。そして、2017年に打ち出した『ラグジュアリー・ディステーション・ネットワーク』構想のもと、国内主要リゾート地にある6つのラフォーレ施設をマリオット系列ホテルヘリブランドし、2018年には沖縄の伊良部島に「イラフ SUI ラグジュアリーコレクションホテル 沖縄宮古」を開業しています。本年は、東京ワールドゲート内の「東京エディション虎ノ門」とともに、「JW マリオット・ホテル奈良」、「ヒルトン沖縄瀬底リゾート」の3ホテルを開業します。こうしたホテルを、都心のみならず日本全国に増やしていくことで、地方旅行者の受け皿の拡充に貢献するとともに、地域活性化の一助になることを期待しています。

2020年は、これまで固めてきた地盤に複数のプロジェクトが成就し、更なる飛躍を遂げる年だと捉えています。先を見据えた事業を着実に推進するとともに、変化する不動産業界において新たな付加価値を提供していくため、固定概念にとらわれず、オープンイノベーション、スマートテクノロジー、ウェルネス、そして人材育成等に取り組み、五輪の先を見据えた持続可能な経営戦略立案につなげていきたいと考えています。

森トラストグループは、コーポレートスローガン『Create the Future』を旗印に、時代の変化に適応した柔軟な発想とアプローチで、経済発展と社会課題の解決を両立する「Society5.0」の実現に貢献してまいります。

以上